

徹底
潜入ルポ

サークル棟 5pm~9pm

あたりが暮れなずむころ、灰色に沈んだサークル棟が大きく息を吐く。
お目覚めのようなのである。

日が落ちて、徐々に血がめぐり、全館の細胞が活気づく。

昼の怠惰な眠りから反転して、テンションがあがる、うごめきはじめる。

のたうってもいるだろうか。

コワイ、キタナイ、クライ、キモチワルイ.....4Kとも5Kとも、

それが勲章であるかのような風評を身にまとった聖域に、6人の記者が入った。

サークル棟に吹く、風の歌を聴け。

友よ、これは、ツブサな現認報告である。————— 学生記者取材班

ボードレールに魅せられた詩人は
この日本の明るさを呪った、という。
「なにかが足りない。パリの片隅
のアパルトマンの、壁の汚れが。ひ
び割れたレンガの傾きが」
隣にキレイなCスクエアがあるだ
ろうに、なんでサークル棟なのか。
ひとえに、黒々とした存在感のゆえ



サークル棟は爆発だ!!

である。デザイナー
ズマンション風より
も、ただドーンと
横たわる四角い館。
アポロンの明るさよ
りもディオニソスの
闇、といつてはオー
バーだけれど。汗と
涙、喧噪とものござ
憂鬱と不条理の笑い
さえ、そこには染み
こんでいるだろうと。
取材班は、3年生
の「ベテラン」記者
と1, 2年「新人」
記者のペア3組に分

かれて、散った。4階建て(地下1
階)、全120室(会議室などを含む)。
どうせなら、くまなく見てやろうと、
途方もない冒険の旅に出たのである。

大音量の源——その正体

5月16日午後5時——。
4限を終えた学生たちが、モノ

レール駅へ流れていく。「白門」プロムナード」の半ばになると、いやでも耳に入ってくる。音やら声やら、まぜこぜの不協和音、ノイズが。

棟に入ると、耳をろうするばかりである。音源を求めて。へ1歩1歩階段を上る度に、迫ってくる。何の音色か。3階にたどりつき、目にしたものは……と江部記者（以下、記者は略）の報告。

竹桐会の大合奏であった。階段から廊下につながる場所に少しスペースがあつて、そこで、琴と尺八と三味線の合奏練習。

「迷惑だとは思っているんですけど……」

会長の松枝晃司さん（文3）は申し訳なきように言った。総勢50〜60人の古典人気か、今年の新人生の勧誘も大成功だったという。そして4月の「関東学生三曲連盟新人演奏会」で2度目の優勝を果たした。音量ももたつぷり響きわたるわけである。

「平然と、すぐ横で黙々と作業を

している人がいる。「番組表を作っているんです」と落語研究会の2人。毛筆でいいねいに、真剣に。

「6月19日はパルテノン多摩の小

ホールで第

79回中大落

語会。年に

2回のビツ

グイベン

トなんです

よ」

気になり

ませんか？

琴の大音量

が。「気に

してはやつ

ていけませんよ。ここの長屋では」

すぐ目と鼻のところにある落研本

陣をのぞいた小野・西原は、「小咄」

の余興にあずかった。

「やってやれよ」と先輩に押され

て6畳敷きの高座にあがったのは平

塚浩之さん（商2）。緑地に黒のス

トライプ入りの羽織を身にまとい、

扇子を手に、「おい、五平……」。

「すこし曲がった口元が妙

におもしろい」。小咄よりも、

とはもちろん言っていない。



「えー、小咄を……」。サービス心の落研

「アエイウエオアオ」VS「青巻紙」

響きわたる声といえば、「アエイ

ウエオアオ、カケクケココ」集

団である。アナウンス研究会。3階

の会室の中はマイクやミキサ、ア

ンプと音響機器完備。ことし読売テ

レビ女子アナ、小林杏奈さんも輩出

した名門クラブである。



発声練習中のアナ研2人。そろってトラの帽子

「この竹垣に竹立てかけたのは、竹立てかけたかったから竹立てかけた」。小山ののこさん（経2）がこれを3回連続で言ってくれました。お見事。もつとも最近は「マンギョンボン号」のほうがよほど舌がもつれる……ようなカンジしません？

「青巻紙、赤巻紙、黄巻紙、青巻紙、赤巻紙、黄巻紙……」とくれば、演劇研究会。こちら、モノレール

側の広場に佇立して早口ことばの常連である。

夕の時間は、3人だけだった。なかで声の大きかったのが木皿雄千さん(法2)。小野に、「取材? いまちよつと忙しいので……6月18日から22日まで学食前の中央ステージで演劇公演します」と大きな声で。空虚をにらんでまた「アオマキガミ……」と始まったので、退散

早々に退散、といえ、ガツンの会。

もちろんノックしたのだが、「いまはちよつと会議中だから」とそれどころじゃない様子。邪魔しても悪いからと、記者たちはそつと離れました。

突然、聞こえる、「チエツチエツコリ〜」。

メロディーに誘われて、谷は裏庭に駆けつけた。わき目もふらずに踊り続ける集団を発見! 新しいダンスサークルかと思

いきや、これが学術連のお堅いEDP会計研究会の面々。

へえつ、会計ってことは簿記とかの? こんなに踊りほうけて、いいんですか?

「いや、違うんです」

いいんですよお、そんなにあわて否定しなくても。

「違うんですつ(泣)。これ、新宿合宿の出し物なんですつ」

彼らは口々に弁解した。新宿合宿



生々しい銃痕!! じつはボンドによる“造形”でした。部屋はナイショ

があること、余興の出し物に2年生は寸劇とダンスをすること、ただいまその練習中であることウンヌン。おまけに「ジャカジャカじゃんけん」までやるのだそう……まあ終われば、ねじりハチマキで猛勉強、「帳尻合わせ」が専門の人たちである。

門札派手な政治学会

そのころ福田は、Cスクエア2階廊下を渡ってサークル棟へ。昨年の講演会タテ看のある英米法研究会から18歩のところに、「どうする」のCMを真似たビラが30枚以上。ピンク、緑、黄、青の字がヤケに目立つ政治学会をノックした。

1921年創立のしにせ団体。ことし23人が入会し、全体で約60人と大所帯。昨年は羽田孜元首相と枝野幸夫衆議院議員、一昨年は菅直人現民主党党首、3年前には小泉純一郎現首相を講演に呼んでいる。

交渉の大変さ。「電話が事務所につながっても、なかなか本人にはつ

ながらず、交渉は難しいですよ。いざ講演会当日になると、政治家の前だからかなり緊張して」と横溝要さん(法2)。渡辺幸子多摩市長もこの出身。

ハジが焦げておる…

最上階4階でも、大音量のロック、そして笑い声。詩友会か、マジメそうなどこなのに何事か?と、酒井が入った。へドアを開けると、きな臭いニオイ、立ちこめるケムリ。男性2人が「お香」を焚いておられた。お香にしてはメラメラ燃えすぎなような。引きまくる記者に、一人が会で刊行の『中央文学』を手渡して、

「約20人のメンバー+新入生は哲学科が多いですが、意外にも連盟のサッカー大会で優勝したんですよ。賭け事も強かったりしますけどね」と優勝の盾を見せてくれたが、ハジが焦げておる……

文学への燃える心が引火して……ご用心。



写真展に向けて黙々と作業中……写真研究部

その足でのぞいた

ユースホステル研究会

には、棚の上に鍋が6つ、

ホットプレートもある。

「ガスコンロもありま

すよ。鉄パイプのベッ

トだってある。生活感

のある部屋、というの

か、ここが一個のホス

テルみたい。

旅サークルだが、こ

の日は、OPEN班と

いって子供たちと一緒

に遊ぶ企画の打ち合わ

せ会議。「子供を預かるので。今日

はまじめに。うちはやるときはやる、

遊ぶときは遊ぶ。でもノリが命」と

小林亮さん（経2）。

男ばかりの「アニメ」の声は？

お隣、アニメーション研究会には

江部が。〈男の方ばかりが6人。きよ

うは女性の方は？

「もともと男しかいないんです

よ」

楽しいですか？

「寂しいデス！」

そう言ったのは一人で、他は別段

困った風もなく、「気楽ですよ」「まあ、

いなくてもべつに問題はないです」

すると、作ったアニメに出てくる

女の子はみなオカマ声……？ おそ

ろしい。

「いえいえ。アナウンス研究会の

女性の方に頼んでますよ（笑）」

3階証券研究会の前でタバコをふ

かす人がいる。消臭剤を

手にもって。K・Mさん

（経2）。「追い出された

んすよ」。本籍は経済学

会だが、お隣さんのよし

みで証研にも所属する。

4階のこのあたりではよ

くあるケースだそう。

証研は最近リフォーム

したばかりで、フロアリ

ングの床に真っ白い壁。

「土足厳禁」。部員たち

は靴を脱ぎ、テレビを見たりしてく

つろいでいる。まるでリビングです。

〈「前はこんな感じだったんです

よ」。向かいの商学会のドアを少し

開けて見せてくれた。たしかに今の

証研の方が明るく開放的な感じがす

る。すると、商学会から彼女が出て

きて、

「チョット、どうぞ、つて言つて

から入つてよね！ 会議中なんだか

ら」

「ごめん、ごめん」

はす向かいに漫画研究会。ここ
は麻雀の最中。「居心地がよすぎて、
授業に行く気がしなくて。麻雀のや
りすぎでみんな単位足りてないんで
すよ」と暮木正二さん（経2）。「バ
イトも雀荘（笑）」と、小野に。〈部
屋にはちゃぶ台とテレビが2台。も
ちろん漫画本がずらりと。漫画雑誌
で作品を描いている人もいる、じつ
はセミプロ集団であるらしい。

せ会議。「子供を預かるので。今日
はまじめに。うちはやるときはやる、
遊ぶときは遊ぶ。でもノリが命」と
小林亮さん（経2）。

「ごめん、ごめん」



デザイン研究会ならではのアートな外観



ザツゼンとした室内もアートなのか……デザ研

グやアクセサリーを作るのだそう。みんなお手製のやつ付けてます。話を聞いていたところ、「オレたちの話も聞いて！」

乱入してきたのは音楽鑑賞部の人。これまたオシヤレ。何を隠そうデザ研音鑑広告研究会、ジャズ研、ナオカン（ダンス）

は5月18日、一緒にイベントを立ち上げた仲。これぞ、中大

コラボレーション!!と筆も躍る。

そのまま地下に下りると、一心不

乱に踊る一団、知る人ぞ知る民族舞踊研究会である。へ俊敏な膝の動き、

柔らかない足首、額に光る汗……踊ったあとのすがすがしい顔と西原の

感動描写とともに、2階の会室をのぞき見た谷の報告。



「コサック」もいいけど「スコットランド舞踊」も、ほらネ

へ「うちはコサックよりもスコットランド舞踊なんですよ」

と自称・広報部長氏。えっ、ということももしかして……。ロツカーを開けてもらうと……ありましたあつ!!

中には総勢20人の、赤や茶色のタータンチェックのスカートがずらりと。スカートをあてて、口から出た言葉は高き夢――

「打倒駅伝部！（笑）」

すこし歩を早めよう。

谷は、校内写真展の準備に追われる写真研究部から始めて、中大スポーツ新聞部へ。年6回発行。手堅い取材と編集ぶりは定評のあるところで、新人5人を加え総勢23人の取材陣で「マイナーな部でも結果を出せば大きく取りあげていきたい」と青柳さん（文・3）。洋弓部では畳6枚を重ねた簡易マットに向かって射ってもらった。「僕の弓は青なんだよ」と梅田さん（商3）。それぞれ

ひたすら謝る男2人（江部）
どこか向こう三軒両隣の風情。
下の階では、アナ研を出た西原が唐草模様のようなアーティスティックな看板に感心して足を止めた。なるほど、ここがデザイン研究会か。
へ話をしてくれた方もやっぱりオシヤレ。活動は主にシルバリーン

マル秘サークル棟伝説

《陣取り合戦》多摩移転の78年、4号館——サークル棟もココの声をあげた。そのころサークルは学術、文化、学友、体育の公認4連盟に分かれ、他に未公認サークルの集まり・白門連盟があった。もう1つ、「設立申請団体」の部屋割りに困った学友会は彼らに雑居部屋を提供した。今でも絵画、ダンスなどにぎやかな寄り合い所帯だが、そもそもは講演会などに使用するために作られた空間だったそうだ。

雑居部屋をあてがわれた総勢50数団体、夜ごと日ごと、陣地取りに明け暮れた。やれ椅子が取られたの、机が無いの、と苦情が絶えず、「職員も仲裁に走り回ったものでしたよ」(学友会)。

サークル棟はそんなドタバタ劇で幕を開けたのだった。

当時は「政治の季節」でもある。サークル棟の場所割りは「政治闘争」の名残をとどめるが、「え、そんなことあったんですか？」と一般学生。いまは話題にもならない？

《4号館の住人》「4号館の住人」——サークル棟で活動する学生たちを、庶務課の人たちはそう呼んでいる。どことなく、親しみをこめて。夜間の見回りなどするうちに、「愛すべき一群」と映るのか。

ここで、よく深夜まで活動をしているサークルを挙げてもらった。1位は実行委員会筋。並んで熱心なのが、写真を扱うサークルだとか。現像室は共用のため、順番待ちでつい深夜に及ぶらしい。

《平均4・1年生》サークルを束ねる連盟会議の委員構成は何年生が多いのだろうか。こころみに聞いてみたら、

「昨年は平均4・1年生。平均を出して驚きましたよ」と、昨年まで同会議議長&非公認を含むサークル統一会議議長だった渡部一実さん。留年してまで、かくも熱心な委員が多い、というわけである。カレだって、「じつは私も、ことし5年生」。

「留年生から学費をとるな！」の檄文が、廊下の棚のさらに上にあっただのは、「単位をミスった自分のことは棚に上げて」という、いささかの含羞でもあるか。

《テレビ墮落論》洗濯機、冷蔵庫、布団に簡易ガスコンロ。そして大量のビール瓶。サークル棟には生活感がぶんぶん漂っている。

テレビは大半完備だが、ここに、

「テレビが入ったサークルは没落する」

となす声がある。サークル部屋にテレビが入る、次はゲーム機が持ちこまれ部員たちの会話は減っていく。自然にサークルの活動はチンタイし衰退するぞ、というサークル棟古株による経験則的文明論的警告である。わがサークル棟は文明の波によく抗しうる、だろうか。

(学生記者 野倉早奈恵=法4)

れ好みの色の弓を使うものらしい。
墨の独特なおいに包まれる書道
会。部屋の中央で、一人が掛け軸ほ
どの大きさの和紙に向かって大作の
筆を振るっていた。

中国研究会では、「ことしはSA

RSが怖くて」となげき節。毎年、
夏合宿は北京や台湾などに行ってい
るが、やむなく断念。京劇の来日公
演も楽しみにしていたが、こちらも
SARSで中止になった。「完全防
備で乗りこむわけにもいかず」と松

崎さん(文2)ら2人。
福田が立ち寄った旧学研連棟はも
ぬけの殻。昨年夏に「炎の塔」に移
転したためで、がらんとした廊下に、
どこかもの悲しく『ヤングジャンプ』
がころがっていた。

鉄道研究会は、写真あり、「たま
どうぶつこうえん」のプレートあり、
鉄道模型も、とにぎやかである。時
刻表並みの厚さの機関誌『どんこう』

「中大鉄研高崎八高号」走る

を刊行。白門祭

のほか神保町書

泉グランデでも

千円で販売。つ

いには、5月31

日9時26分上野

発《中大鉄研高

崎八高号》を走

らせたものであ

る。創立40周年

記念。この日は

公募した一般乗

客も決まり、一

安心。「一般公

募の人集めと日

程がなかなか決

まらず、金銭面

も含めてJRと



「のりかえ」の駅プレートは鉄道研究会

ホール」。

ダイバー用のスイミングスーツでわかる海洋研究会、卓球同好会にはピンポン玉の山となぜか3本のテニスラケット、剣影会には面や胴が入った大きなバッグが高く積んである。星座や木星が天井からつり下がる地学愛好会。全国各地で化石採集や天

体観測を中心に行い、過去には日食を見にオーストラリアまで行った人がいたそうだ。

クライミングボードが目印の探検部で三好悠介さん(総2)は「在学中に海外遠征が夢ですよ」と。鹿児島県は宝島という無人島に行き、「ハブに遭遇したり、全員が下痢をしたり」——ナンデモナイヨという顔で。

の交渉が大変だった」と井原慶さん(商3)。へ歴史において朗吟会や公司法会と並ぶ鉄道研究会は、男のロマンの漂う場であった」

2階へ降りた。ガラス窓には「ものぐさ」の習字や駐禁のプレートが貼られ、外も内モノとヒトで騒然としている。そう、ここはロッカーと本棚を仕切にしただけの、「雑居

軽音楽同好会の会室からは夜遅くまで演奏が聞こえていた。

雑居ホールの向かい側には二輪愛好会のバイクが並んでいる。秘密基地を彷彿させるラセン階段を下りたところである。総勢22人のうち女性ライダーも数人。あいにく姿がなかったが、大貫怜二郎さん(総3)が谷の写真の注文に、カッコよく決

めてくれた。実家は香川県。「帰省のときはテントを積んで途中で野宿しながらノンビリと帰るんですよ。北海道から九州まで、どこにでも突っ走りますよ」

そして作家も誕生

そして、「作家にも会いましたよ」という、江部・小野2人の報告を。

4階にある文学会。テーブルを囲んで、4、5人が談笑していた。巨人—阪神戦のテレビを見ながら。

なかに吉川良太郎さん。「まだまだ駆け出しですがなにとぞ応援をよろしく」とあいさつされた。

『ペロー・ザ・キャット全仕事』(徳間書店)という作品で01年第2回日本SF新人賞を受賞。中大院



夜のライダー・大貫怜二郎さん

生(前期)が受賞、と話題になった。「専攻はジョルジュ・バタイユ」という紹介もマニアをうならせて……。エロティシズムと死、「過剰と蕩尽(消尽)」で知られる、ちよつとすごいフランスの文学者・思想家である。掛け持ちするSF研究会を「秘密基地」と命名して、ながく主だったそうである。「こととして院のほうは修了して、これからは創作に本腰を入れる予定です」

他に著書2冊、雑誌にも連載と活躍中。物腰はいたつておだやかだったけれど、後日ホームページを開いてみれば、シニカルで過激、ですよ。

「5LK」の館……

お前は何者？

作家も生んだサークル棟。壁という壁が文字と絵で覆われていた。70年代、「政治の季節」の「憂鬱な党派」(高橋和己)たちの檄文や情念の詩句も黒ずんで残る。

「我が欲するものは酒と女と文学

と革命のみ」——だれが書いたか、これは新聞学会の壁に。なかなか決まったセリフだけれど、その横に矢印付きで「こいつもてねーよ」ときついツツコミが……。

激動の時代から遠く離れて、いまはごく普段着の「軽さと明るさ」の風が吹いていた。癒しの生活空間でもあるような。

キタナかった。でもライトなキ

タナさ(明るい汚さ、というのもヘンだけど)。

「5K」改め「5LK」とでも形容しようか。

——記者たち

が引き上げてきた。もう夜9時に近かった。

一部Cスクエアに引越して、いま、サー



本棚が立派な文学会。ここからSF作家も……

学生記者たちが見たサークル棟とは、一体何者だったか。一言ずつ書き添えよう。

江部理恵(法3)「ああ『壁

画の衝』よ。壁画にこめられた住人の思いを想え、とばかりに」

小野光雄(総3)「奥に入るほどぼんやりした暗闇だった。大学生活の断面がカンヅメになった奥の院」

酒井まりえ(文3)「どんな

伏魔殿かと思いきや、みんない感じに自分勝手。肩の力がぬける脱力空間」

西原香保里(経2)「カオス

と冗舌。同種の種子たちが群れ、ささやいていた。陽気な風に吹かれつつ」

福田成幸(法2)「ここでしか見られない表情の豊かさ。パワリーの大きさ。粹で燃焼系な中大生を大実感」

谷ちひろ(法1)「妖しげな

音楽、濃霧のような紫煙、謎の

住人……そこは異世界だった」